近年の大学入試センター試験の測定内容の定性分析

○荒井清佳，石岡恒憲
大学入試センター　研究開発部

１．はじめに

大学入試センター試験（以下，センター試験）は，大学（短期大学を含む）に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主目的とする試験であり，平成 2 年度以降毎年実施されている。

センター試験の役割の一つに「難問奇問を排除した，良質な問題の確保」があり，高等学校等の関係者からも高い評価を受けている。しかし一方で，「暗記を助長する」「思考力・判断力・表現力を評価できない」等の批判もある。そこで，本研究では，現行のセンター試験が何を測定しようとしているのか，外部による評価をまとめた。発表では，いくつかの教科・科目を取り上げ，紹介する。

２．センター試験について

２．１　試験科目

6 教科（国語，地理歴史，公民，数学，理科，外国語）・30 科目前後が出題される。ただし，平成 27 年度試験では，旧教育課程履修者用の科目が経過措置として出題されたため，6 教科・40 科目が出題された。

２．２　志願者数，参加大学・短期大学数

センター試験の志願者数は，平成 27 年度試験では約 56 万人であり，高等学校等新規卒業者に占める志願者数（現役志願率）は 42%であった。また，参加大学・短期大学数は年々増えており，平成 27 年度試験では 849 校であった。

３．評価について

次の 2 種類の外部による評価を利用し，各科目・教科の評価をまとめた。本発表では主に平成 26 年度試験に基づく。

３．１　試験問題評価委員会報告書

大学入試センターでは，出題された試験問題の内容，程度，出題方法等についての外部評価等をまとめた「試験問題評価委員会報告書」を刊行している。そこでは，各教科・科目ごとに高等学校教科担当教員及び教育研究団体の意見・評価，問題作成部会の見解が記載されている。

３．２　外部の教科試験の専門家による評価

各科目・教科の試験に詳しい外部の専門家に評価を依頼した。主な評価観点は，解答に必要とされる知識の種類や，問題で問われている能力の種類である。

４．英語

「英語（筆記)」の作題方針では，語彙・語法等に関する知識だけでなく，言語運用能力を総合的・多角的に測り，応用力や思考力も測るように工夫する，としている。各大問の出題意図は，第１問：音声の知識，第２問：語彙，文法，語法，言語使用の知識・能力，第３問：談話レベルにおける文章の理解力，第４問：情報処理的視点からの文章の理解力，第５問：出来事の展開を叙述する文章の理解力，第６問：まとまりのある説明的な文章の理解力，である。

外部の教科試験の専門家による評価は次の表のようであった。（　）内の数値は，その該当する設問に割り当てられた配点の合計である。

	知識	文法力	単語の運用力	英文構成力	コミュニケーション能力	基本的読解力	長文読解力	論理的読解力	趣旨を捉える力	情報抽出力
第１問	○(14)									
第２問	○(4)	○(8)	○(8)	○(12)	○(12)					
第３問			○(8)					○(15)	○(18)	
第４問								○(5)	○(5)	○(25)
第５問						○(18)			○(12)	
第６問							○(12)		○(24)	

５．情報関係基礎

「情報関係基礎」とは，「数学②」の科目の一つであり，職業教育を主とする８教科で設定されている情報に関する基礎的科目が出題範囲である。四つの大問が出題され，第１問と第２問は必答，第３問と第４問はいずれかを選択する。

作題の方針は，１）情報の基礎知識として当然知っている，もしくは知っていてほしい事柄や内容を中心とする，２）基礎的な知識をベースにして，問題を理解し考えれば解ける問題，すなわち，よく読んで考えさせる問題を中心とする，である。設問ごとに測定内容を見ると，問題作成部会の出題意図と，外部の教科試験の専門家による評価はほぼ一致していた。次の表は，外部の教科試験の専門家による評価を第１問と第２問についてまとめたものである。（　）内の数値は，その該当する設問に割り当てられた配点の合計である。

	基礎的な知識	読解力と計算力	読解力と分析力
第１問	○(16)	○(4)	○(10)
第２問	○(2)		○(33)

６．まとめ

センター試験は，該当科目の高等学校学習指導要領に従うこととなっており，その内容は科目ごとに異なる。出題意図や外部の教科試験の専門家による評価に基づけば，その科目に関わる知識以外だけでなく，読解力や情報抽出力，計算力や分析力など，科目に応じてさまざまな能力を測定していると言えるだろう。

連絡先：sayarai@rd.dnc.ac.jp